

令和2年度

# 女性の仕事と暮らしの応援講座

## “未来カフェ” 報告書



## はじめに

近年の人手不足を背景に働く女性が増えていますが、その多くは非正規雇用です。

男女間の賃金格差は縮小傾向にあるものの、依然として女性の賃金は低く、厳しい状況が続いています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用情勢が悪化し、不安定な就労環境が顕在化しております。このような中、自身の健康問題や親の介護など様々な悩みも加わり、将来に対する漠然とした不安を抱えている人もいます。

こうした状況に加えて、非正規で働くシングル女性の場合、利用できる行政の支援は少なく、また支援の情報が届きにくいといった厳しい現状があります。

本事業は、こうした生きづらさを抱えた非正規で働く女性の不安を軽減するとともに、仕事に役立つ知識を得ることで、正規雇用への転換や仕事に対する意欲の向上を促すことを目的として実施したものです。

今年度は、全4回の講義において、将来に向けてのライフプランやマネープラン、万が一の時に利用できる公的支援、資格の探し方・活かし方について学ぶとともに、同じ悩みを共有できる仲間とともに困難な状況を乗り越えるため、参加者同士のネットワークづくりを実施しました。本講座において学んだことや、参加者同士のつながりを通じて、参加者の今後の仕事や暮らしがより良いものになることを期待いたします。

最後に、本研修の実施に当たり、御助言、御協力を賜りました関係者の皆様に感謝申し上げます。

令和3年3月

福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課長  
柳瀬 留美

# 目 次

はじめに

## 概 要

福岡県「女性の仕事と暮らしの応援講座」概要……………1

## 講座・交流会

- 第 1 回 「未来をひらくライフプラン」……………4  
島田 和子（株式会社アンテ代表取締役）
- 第 2 回 「私の未来とお金の使い方」……………6  
伊藤 志保（CROSSHEART(クロスハート)代表）
- 第 3 回 「万が一のために、未来へつなぐ社会の支援」……………8  
平田 洋（社会福祉士・介護福祉士）
- 第 4 回 「未来につづく資格を考える」……………10  
佐崎 和子（社会保険労務士）

## 受講者アンケート

受講者アンケートから考える、事業の成果と課題……………12

## アドバイザー所感

非正規雇用女性たちの声をすくう、福岡県の新たな取り組み……………16

# 女性の仕事と暮らしの応援講座 概要

## 目的

非正規で働く女性の不安を軽減するとともに、仕事に役立つ知識を得ることで、正規雇用への転換や仕事に対する意欲の向上を促すことを目的とする。

## 講座名

「わたしの未来を考える 未来カフェ」

## 主催

福岡県

## 内容

### 第1回

### 未来をひらくライフプラン

日時・会場	福岡:11月14日(土)リファレンス駅東ビル5階 V-4 久留米:11月29日(日)久留米市シティプラザ4階小会議室
スケジュール	13:30 開講式 13:40 ミニ講演会/村山由香里さん 14:00 講義/島田和子さん 15:20 特別対談/島田和子さん×村山由香里さん 15:40 交流会 16:30 閉会
受講者数	計22名

### 第2回

### 私の未来とお金の使い方

日時・会場	福岡:12月12日(土)リファレンス駅東ビル5階 V-4 久留米:12月13日(日)久留米市シティプラザ4階小会議室
スケジュール	13:30 開会 13:35 講義/伊藤志保さん 15:40 交流会 16:30 閉会
受講者数	計22名

### 第3回

### 万が一のために、未来へつなぐ社会の支援

日時・会場	福岡:1月16日(土)オンラインで実施 久留米:1月17日(日)オンラインで実施
スケジュール	13:30 開会 13:35 講義/平田洋さん 15:40 質疑 16:00 閉会
受講者数	計15名

### 第4回

### 未来につづく資格を考える

日時・会場	福岡:2月13日(土)オンラインで実施 久留米:2月7日(日)オンラインで実施
スケジュール	13:30 開会 13:35 講義/佐崎和子さん 15:40 交流会 16:00 閉会
受講者数	計10名

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令のため、第3回、第4回はウェブ会議ツール Zoom を利用しオンラインで開催した。機器や通信環境の関係でリアルタイムでの参加が難しい受講者のために、講義の様子を録画し、後日動画配信サイト YouTube で視聴できるようにした。第3回、第4回の講座後アンケートは Google フォームで実施した。

### 受講者数

延べ 69名 (第3回、第4回を動画配信のみで受講した者は含まない)

## アドバイザー

リムリムラボ代表 村山 由香里

元株式会社アヴァンティ代表取締役社長兼編集長。元福岡県男女共同参画センターあすばる館長。女性向け情報誌編集歴35年。会社経営歴25年。これまで1,000人を超える女性起業家や働く女性をインタビューし、企業や行政、大学で500回を超える講演を行ってきた。現在、講演、執筆、ラジオパーソナリティや行政の女性活躍推進事業に携わるとともに、人と人がつながる場「天神キャリア塾」を主宰している。



### アドバイザーによるミニ講演会

まず、私が会社を興したきっかけについて話します。新卒で就職した会社を3年で退職しましたが、当時、女性の再就職は難しい時代でした。なんとか市役所の嘱託職員の職を得たものの、正規職員は男性がほとんどで嘱託職員は女性だけ。書類の清書が仕事だったのですが、職員のためのお茶くみが1日4回あることに衝撃を受けました。日本は女性の能力をいったい何だと思っているのかと。職場にあった地元情報誌に「アルバイトありませんか？」と電話して転職しました。そこで、人に会う面白さ、書く楽しさを知りました。当時、読者の女性たちは、好奇心旺盛でやる気も



あるのに、結婚を機に退職するのが当たり前、昇進はできないという状況でした。一方で、資格を取ったり海外に飛び出したり、自分の運命を変えていく場面にも遭遇しました。この経験を経て、「女性だから」と諦めている人たちに勇気や元気や希望を感じてくれる場を作りたいと、自分で情報誌の会社を興したのです。

この講座に参加されている皆さんは、ここに来ることで第一歩を踏み出しました。色々な専門家のお話を聴く刺激が、新たにこれをやってみようという気持ちになるでしょう。普段は話にくい自分の本当に好きなことややりたいことを話してみたり、他の人の話を聞いたりして、自分の心の内に気づいてください。私自身、再びゼロになって自分を見つめ直しています。人生、いくつになっても巻き返しはできますよ。

※村山由香里アドバイザーのミニ講演会は、第1回講座の一部として実施。

#### 受講者の感想

- ◆ 村山さんのざっくばらんなお話がうかがえて、とてもよかったです。
- ◆ 「人生にムダはない！」という言葉、本当にその通りだと思いました。



## 未来をひらくライフプラン

これからの仕事や暮らしに向き合う準備をしよう

株式会社アンテ 代表取締役

2級キャリアコンサルティング技能士 島田 和子

県庁で勤務後、退職し起業。コーチングの世界に入り、キャリア、メンタル、コミュニケーション等をテーマに個人セッションや各種講座、講演を実施。また、地方の中堅企業の組織づくり・人材育成に取り組んでいる。

### ライフプランを描くための3つの視点

「キャリア」という言葉は、仕事だけでなくプライベートも含まれた人生そのものです。そして、これからの人生を描くことが「ライフプラン」です。ライフプランを描くときに3つの視点が必要です。

- ① Will(何がやりたいか、関心・価値観) やりたいこと、大切にしたいこと
- ② Can(何ができるか、資質・能力) 生まれながらに得意な資質、身につけた能力
- ③ Must(必要性・責任) しなければならないこと。生活に欠かせないこと、現在の社会的立場で果たさなければならないこと。

これらの3点が重なり合うところは「何か」が、キャリアを考える際に重要なポイントとなります。そのポイントから、やりがいをもって長く続ける仕事を考えることができます。社会保険や休暇制度、転勤の有無など、雇用形態ごとの労働条件の違いを確認して、自分のライフプランに合った働き方を考えてみましょう。



### ライフラインチャートを使った「キャリアの棚卸」

自分に備わったもののうち、未来に向けて活かせるものは何かを見つけるために、「ライフラインチャート」を使って「キャリアの棚卸」をしてみましょう。成功体験と失敗体験、その裏にあった自分の強みや周囲の支え、どん底から立ち直った時の力の元などを書き出してみましょう。次に、それぞれの体験の充実度や幸福度をプラスとマイナスで数値化してください。時間軸上に数字を線(ライン)でつなぐと、人生の山や谷がわかります。このように見える形で整理することで、自分の得意・不得意、身につけた能力、大切にしたいこと、譲れないこと、嫌いなことなど、未来に活かせる過去が見えてきます。

## 過去からのヒントと未来の可能性で描くライフプラン

ちょっとだけ先の未来、3年後のイメージを「ライフサークル」で描いてみましょう。①私自身、②仕事・収入、③人間関係、④時間の使い方、これらの4つの領域について、現実的な制約や「Must」は脇に置き、夢を膨らませてイメージを描いてみてください。自分の理想と現在地が見えてきます。

ライフプランを描くときには、過去から沢山のヒントを得られます。これまで培ったもの、持って生まれたものは、一人ひとり違って価値があります。「ない」と思う人も他人から見てもらうと発見することができます。一方で、未来には、過去やその延長線上にはない可能性があります。この講座をフル活用して、仲間や講師陣と一緒に、自分自身の素敵な人生を描いていきましょう。

### 特別対談 島田和子さん×村山由香里さん

村山:コロナ禍は非正規雇用の女性にドカンと影響が出ています。

だけど、先ほど参加者から「この半年仕事がありません。でも、生きています」という言葉がありました。現実がズシリと響きます。と、同時に「なんとかなる!」という気迫を感じました。すばらしいです。



島田:私は人生のどん底にいたとき、ただひたすら話を聴いてくれる職場の先輩がいました。否定されずに聴いてもらっているうちに、将来を具体的に考えるように変わりました。

村山:私も、落ち込んでいたときに斜めの関係の人に話を聴いてもらって助かりました。それから、やりたいこと、嫌なことを書き出したこともよかった。それから10年以上たったとき、「女性を一步前に」とやりたかったことをやっている自分に気づきました。

島田:書くことは大事。堂々巡りから抜け出すことができます。

村山:2年前、再び、今後の人生をどうするか真剣に考えることに直面しました。そこでも、男女平等を進めるというやりたいこと、「Will」は変わらないと確信しました。

島田:私は一人で考えられなかったので、自分を知る講座に通い、モヤモヤを解決しました。この講座で皆さんが参加者同士や私たちとつながって前に進めたらと思います。

村山:私から皆さんに送る言葉。「人生はいつでも巻き返すことができます!」

### 受講者の感想

- ◆ ライフラインチャートを書いてみて、苦しい事もあったけど、充実してたなあと思いました。3年後のライフサークルは具体的に考えて楽しかったです。
- ◆ 自分のことを見つめ直すいいきっかけになりました。自分のことはわかっているつもりでしたが、本当は何がやりたかったのか、どんな環境で働きたいと思っていたのか、思い出せた気がします。





## 私の未来とお金の使い方

20年後、30年後、安心して暮らせる

マネープランの立て方とは

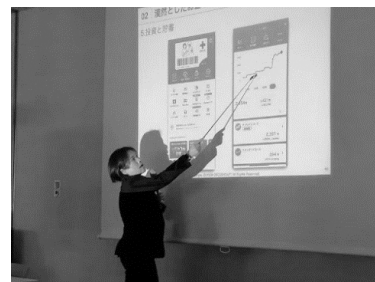
CROSSHEART(クロスハート)代表

1級ファイナンシャルプランニング技能士 伊藤 志保

製造業からサービス業に至るまで大小様々な業種業界を経験し、情報格差による経済格差を痛感した。中小、小規模事業の方々へ IT を中心とした情報を味方にする業務支援を行っている。西日本新聞にコラム「どうなっとうと？デジタル」連載中。

### お金の不安を解消するためには自分と向き合うことから

20年後、30年後の暮らしに対して不安を抱えないためには、お金の話は切っても切れません。お金をめぐる不安をどう解決するか、その根底にある一番大事なことは、自分自身が望むのは、「どんな生活か」「どんな家庭か」「どんな老後か」。そして、「どんな人生を送りたいのか」という人生観です。この講座で自分自身の人生観に向き合っていただきたいと思います。



少し、私の職務経歴を紹介します。バブル期に就職し副業しながら製造業で働き、退職してから、国際ファイナンシャルプランナー(CFP)を取得しました。さらに、紆余曲折を経て、FPとは異業種である飲食店やコールセンターなどに勤務しながらも、常にFPの視点で業界を見てきました。古い価値観にとどまり、新しい情報や知識を吸収できないために、経済的に損失をこうむる人は多くいました。情報格差が経済格差となることから、FPとして、情報に基づく正しい選択を支援できるようコンサルティング会社を設立しました。

### お金の不安の原因を探る

昭和、平成、令和と時代は変遷し、それに伴い多様な不安が生まれています。不安を解消するために、まずは不安の原因を探らなければなりません。頭の中にある漠然とした不安の原因は、マインドマップを使って紙の上で整理し、明確化することができます。マインドマップのためのアプリもあるので、利用をおすすめします。

さて、将来に対する不安は、「生活」か「お金」か、2つに分けることができます。生活の不安の原因は「整える」「守る」「良くする」「より良くする」の4つに、お金の不安の原因は「働く・稼ぐ」「貯める」「増やす」「寄付する」の4つに分かれます。これらの項目がそれぞれどのようにつながるのかを整理していくと自分自身の課題が見えてきます。例えば、現在の生活を「守る」ことへの不安では、原因は生活に係る社会的支援への情報不足だとわかります。しかし、情報過多の

時代にあっては、課題解決のための選択肢は多すぎて迷ってしまいます。そこで、どんな生活を送りたいかという人生観を基準にして、情報を取捨選択していくことが重要となります。

### 漠然としたお金の不安を解消する方法

老後の生活に漠然としたお金の不安を感じるならば、現在の生活を「守る」ために、あるいは「良くする」ために、どのくらいお金が必要かを算出することをおすすめします。どのような老後を過ごしたいかという人生観が、必要なお金の判断基準となります。具体的には、いつまで働くか、どこに住むか、誰と住むか、などの点で老後に望む生活の条件を確認し、そのためにどのくらい必要かを計算します。必要な金額に応じて、老齢年金と収入で賄えるのか、仕事を増やすか、投資や貯蓄で増やすのか、投資するならばどのような形が適切か、と情報を集めていきます。このようにして、病気や保険、介護など未来に対する様々な不安を具体的に解消していきましょう。大切なのは、情報収集は希望する未来のための「対処療法」(手段)、つまり課題解決ツール(道具)であって、目的ではないという認識です。



### 必要とされるお金のスキルは新たな価値観の元で

社会の価値観は大きく変化し多様化しています。モノは、所有から使用へと変わっています。服やバッグを長く持つことなく、使い終わったらフリーマーケットアプリで売る時代になってきました。働き方をみても、令和の現在、会社の平均寿命は30年。会社の方が人より長い寿命だった昭和時代には終身雇用制度は成立しましたが、今では非現実的な制度となりつつあります。企業の都合ではなく、自分自身の生き方にあった働き方、例えば複業(副業)したり生涯現役で就労するなどを探ってみましょう。

未来は、IT化の進展に伴い、公共サービスの簡便化や自由なライフスタイルの選択が可能となることが予想されます。これからはどんな時代になるかわからないということを、勇気と覚悟をもって受け止め、そのうえで自分の基準で情報を選択してください。

最後に皆さんへのメッセージです。「“今まで”“普通”は終わり、時代は大きく変わりはじめました。新しい時代は、本当の自分で、ありのままに人生を楽しみましょう!!」

### 受講者の感想

- ◆ これからの働き方を見直すことができました。加速して進むデジタル化への不安が軽減できました。自分らしく仕事をしていく姿勢に学ぶことが多かったです。
- ◆ 人に掛けられる言葉に勝手に傷ついたりして、いつのまにか自分の人生をあきらめて思考停止していたなと思いました。いつまでも積極的に情報収集を怠らず、自分の人生は自分でコントロールする意識でいたいなと、前向きな気持ちになれました。
- ◆ 講師の先生のパワーに圧倒されました。交流会は様々なお話が出て、よい刺激になりました。



## 万が一のために、 未来へつなぐ社会の支援 いざという時あなたを支える公的支援の利用方法

社会福祉士・介護福祉士 平田 洋

福祉系大学を卒業後、特別養護老人ホームで介護職員、生活相談員を務め、現在は、福岡市ホームレス巡回相談・アフターケア事業『巡回ふくおか』統括責任者。福岡犯罪被害者支援センターの相談員・支援員も兼務している。

### 制度を知ることで負担を軽く

公的支援には、医療保険や年金保険、介護保険などの社会保険や生活保護のほか、様々な助成や免除などの制度があります。しかし、自分は対象になるのか、どんな手続きがいるのか、どこが窓口になるのかなど、意外と知られていないことも多いようです。

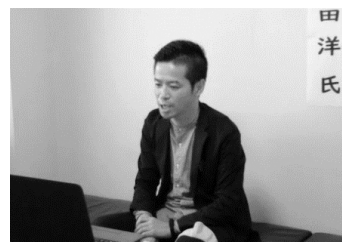
医療保険には、国民健康保険と被用者保険、後期高齢者医療、また、生活保護受給者で公的医療保険の対象ではない人への医療扶助などがあります。大きなけがや病気で高額な医療費が発生した場合には、「高額療養費制度」により自己負担限度額を超える金額が払い戻されます。また、定期的な通院などで年単位で高額な医療費がかかる人は、「医療費控除」が受けられる場合があります。これは交通費も対象になるので、定期的に病院にかかっている人は金額を確認してみてください。また、一部の医療機関は、経済的理由で医療費の支払いが困難な人やDV被害者などを対象に、「無料低額診療事業」を実施しています。これらの制度を事前に知っていれば、払い戻しではなく支払う金額が少なくなることもあります。医療費に不安がある場合は、遠慮なく医療機関に相談してください。

### 自身の状況を把握して必要な備えを

年金については、社会や制度の変化もあり、年金だけで老後の生活を送れるかという難しい面があります。ですから、自分自身でもできるだけ老後の資金をためておくことも必要です。例えば「iDeCo(個人型確定拠出年金)」は、貯蓄しながら節税できる制度です。しかし、メリットがある反面、60歳まで引き出せないなどのデメリットもあるので、無理のない範囲で利用することが大事です。また、失業や所得の減少で国民年金の保険料の納付が難しくなった場合には、免除や猶予の制度もあるので、すぐに相談しましょう。ねんきん定期便などで自身の納付状況を把握しておくことも重要です。

最後に、介護保険制度についてです。意外と知られていないのですが、介護保険の給付対象には65歳以上の人だけでなく、40～64歳で国が定める特定疾病(末期がんや脳血管疾患、関

節リウマチなど)の診断を受けている人も含まれており、若い人でも利用できる場合があります。また、家族が要介護状態ではないかと思ったときは、おおむね中学校区ごとに設置されている地域包括支援センターに相談することができます。すぐに要介護認定を受けたい場合は、役所の介護保険担当窓口に直接相談してもかまいません。介護保険サービスの利用の仕方も、「施設か自宅か」の二択ではなく、様々なサービスを織り交ぜて利用することが可能です。利用者の意向や家族の状況を考慮しながら、サービスを選択するとよいでしょう。経済的な事情がある場合は、施設を利用する際の食費や居住費が世帯の収入状況により軽減される「介護保険負担限度額認定制度」や、同月内に利用したサービスの利用者負担額の合計が一定額を超えた場合に申請できる「高額介護サービス費支給制度」などもあります。



### 早めの相談が解決への近道

これらの制度を活用しても、どうしても生活に行き詰まってしまうこともあり得ます。失業などで一時的に家賃を払うのが困難だが生活保護を受けるほどではないという場合は、数か月家賃相当額の給付を受けられる、「住居確保給付金制度」があります。この制度はコロナ禍で申請が増加しており、要件の緩和も行われています。一時的な支援だけでは生活再建が難しい場合は、生活保護の相談も検討しましょう。

こういった制度の利用には、心理的なものも含めて様々なハードルもあるかと思いますが、早めの相談が肝要です。課題の整理や解決を後回しにすればするほど、課題が積み重なり、すべての課題を解決するには時間がかかってしまいます。様々な費用や保険料の滞納が重なり、弁護士等に相談したくても、本人が自身の状況を把握できなくなっているケースも実際にあります。問題がなるべく小さいうちに早めに相談して解決することで、こういったことを防ぐことに加え、解決に費やす本人の労力も小さくてすみます。公的支援には、制度的にわかりにくい面もありますが、それぞれの分野の専門家がいますので、何か気になることがあるときには、積極的に相談をしてください。

### 受講者の感想

- ◆ 将来困ったときに使えるいろんな支援策があることがわかり、今後困難な状況になったときも、一人で抱え込まないで、早めに相談しようと思いました。
- ◆ 現状は、聞かないと教えてもらえない、自分で勉強しないと先へ進めない状態ですが、こういった情報をもっと簡単に入手できるサービス等があれば、このコロナ禍で大変困っている方々の救いになると思います。
- ◆ 困ったときに役立つ知識を持つておくこと、すぐ行政に相談することで自分を守ることが出来ることを知り、心強く思いました。



## 未来につづく資格を考える

自分らしく働くための

資格の探し方、活かし方、つながり方

社会保険労務士

1級キャリアコンサルティング技能士 佐崎 和子

資格取得後、ステップアップしながら25年以上働き続けている。今の仕事の行政機関の労働相談では、法律知識とカウンセリングのスキルを活かし、相談者一人ひとりの状況に合わせて寄り添い、一歩が踏みだせるようなサポートをしている。

### 資格についての目的やイメージを明確に

資格には、弁護士や社会保険労務士など、法律に基づいて国などが実施する試験等により認定される国家資格、日商簿記検定など、地方行政機関やそれに準ずる機関が認定する公的資格、臨床心理士やファイナンシャルプランナーなど、協会、団体、企業などが独自の審査基準を設けて認定する民間資格など、様々なものがあります。

資格を取得するにあたっては、(1)どのような目的や理由でその資格を取りたいのか考え、自分自身の興味や価値観を明確にしておくこと、(2)どんな資格を取っても必ずそれに付随する業務があるので、取得したい資格の仕事内容について具体的に調べておくこと、(3)資格をどう活かすのか、例えば、就職・転職するのか、兼業・副業するのか、フリーランスで働くのかなどをイメージしておくこと、(4)その資格が活かせる業界のことを調べておくことが大事です。こういったことを事前に考えておかないと、せっかく資格を取っても「こんなはずじゃなかった」ということになりかねません。

### 多様な観点から自分に最適な方法を選んで

資格を取得するには、民間の学校はもちろん、主に雇用保険を受給している求職者の方を対象とする公共職業訓練や、雇用保険が適用されない方や、雇用保険を受給できない求職者の方を対象とする求職者支援訓練など、無料で受けられる制度もあります。また、一定の要件を満たす方が指定を受けた教育訓練を受けた場合に、その費用の一部を雇用保険から支援する教育訓練給付金などもあります。学び方も通学や通信、独学など様々です。選択のポイントとしては、費用もちろん大事ですが、モチベーションの維持や人とのつながり、情報の入手手段の確保などが、その後の資格を活かすためにも大きく影響するので、こういった点も考えてください。

資格を活かして働くにあたって、雇用されて働くこととフリーランスで働くことの違いも知っておきましょう。フリーランスとは自営業者であり、労働基準法などが適用されません。社会保険も、

被雇用者は労災保険や雇用保険、厚生年金保険の対象になりますが、フリーランスになるとこれらの対象から外れます。仕事の自由度も、フリーランスだから好きな仕事だけやれるというわけではありませんし、仕事や契約についての交渉も自分でやっていかなければなりません。これらを理解したうえで、どういう働き方をするのかを考える必要があります。

### 私の資格取得と仕事体験

実は、私自身は将来のことや仕事内容を事前にしっかり考えて資格を取得したわけではありませんでした。夫の転勤などで仕事をしていない期間を経て再就職を考えていたときに、働く人、特に女性を支援したいと思ったのが、社会保険労務士の資格を取得するきっかけでした。しかし、実際の社会保険労務士の仕事は事業者から委託を受けて仕事をする事が多く、もっと働く人を直接支援したいという思いから、産業カウンセラーやキャリアコンサルタントの資格を取得しました。その後、ほぼ未経験で就職相談に従事することになり、不安なこともありましたが、その時は「できる・できない」より「これこそ私がやりたかった仕事だ」という思いでした。さらに、社会保険労務士とキャリアコンサルタントの資格が必要な高齢者の就職支援の仕事などを経て、現在の労働相談の仕事をしています。



私自身の経験は計画的にステップを踏んできたとはいいい難く、先ほど私が話したことと矛盾していると思われるかもしれませんが、自分がやりたいことの中にエネルギーが湧いてくるので、そういう思いも大切にしてください。

私が資格取得後にほとんどブランクなく働き続けてこられたのには、様々な人とのつながりによって支えられてきたことと、「仕事をしたい」という強い気持ちがあったことが大きかったと思います。現在も様々な勉強会に参加したり、自分で主催したりもしていますが、ぜひ皆さんにも自分が主体となって何かをやってほしいと思います。迷ったら、失敗してもいいからチャレンジしてほしいですし、自分が大事にしたいものは何かを考えると指針が見えてきます。

### 受講者の感想

- ◆ 資格を取ればすぐ収入につながるわけではないが、自分がやりたいことに必要だと思う資格があれば取得しようと思いました。
- ◆ 講師の方の経験から述べて下さることが多々あり、より実践的で現実味があり前のめりで参加できました。
- ◆ 資格取得は非正規雇用で働きながら常に念頭にあることですが、取得に関わる費用のことや取得後のことを考えてしまいます。ただ、資格取得自体は何かしら自分の人生の糧になり、どこかで活かしていけることは間違いないと思いました。

# 受講者アンケートから考える、事業の成果と課題

NPO法人福岡ジェンダー研究所 研究員 武藤 桐子

## I. 調査の概要

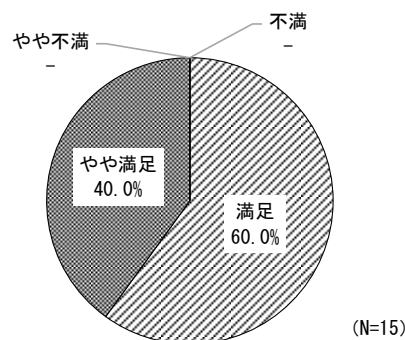
講座の受講者に対し、第1回講座受講前に調査票配布により、また第4回講座の受講後にGoogleフォームにより、アンケート調査を行った。受講前アンケートは講座の際に実施したため計27件の回答が得られた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い第3回、第4回講座がオンラインでの開催となり、アンケート調査もオンラインでの実施となったこと、また、移動を避けたいなどの理由で受講の辞退者が出たことなどにより、受講後アンケートへの回答は15件にとどまった。事業の効果について検討する目的から、本考察は受講後アンケートへの回答があった15名を対象とする。

## II. 調査の結果

### 1. 講座全体についての満足度

全4回の講座の満足度についてたずねたところ、「満足」が60.0%、「やや満足」が40.0%、「やや不満」「不満」はともに0%であった(図1)。受講者の離脱等はみられたが、参加を続けた受講者の満足度は高かったといえる。

図1 講座全体についての満足度



### 2. 講座の実施方法

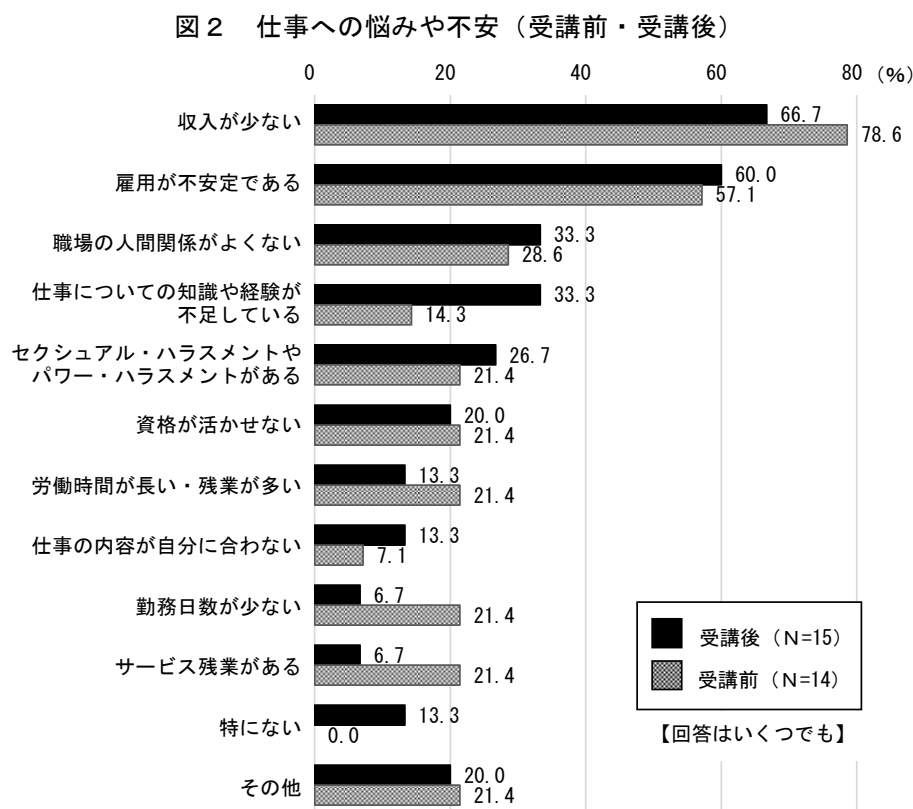
講座の回数(全4回)は、「ちょうどよい」が80.0%、「もっと多い方がよい」が13.3%、「もっと少ない方がよい」が6.7%で、大半の受講者が適切な回数であると感じていた。

今後、同様の講座を開催する場合に、希望する開催曜日、開催時間帯、開催場所について尋ねた。曜日については、「土曜日」が80.0%、「日曜日」が66.7%、時間帯としては、「13～16時」が73.3%、「18～21時」が26.7%、などとなっていた。土日の13時半から16時半にかけて実施した本講座は、概ね受講者のニーズに合っていたことがわかる。

開催場所については、「久留米」が60.0%、「天神」が53.3%、「博多」が40.0%となっていた。本講座の受講者は、そもそも今回の開催場所にアクセスしやすい人が多かったと思われるため「久留米」「博多」が多くなるのは当然と思われるが、「博多」より「天神」での開催希望が多くなっており、今後、福岡地区での講座実施にあたっては天神での開催も検討する必要がある。また、「その他」としてオンラインでの開催を希望する意見も1件あった。

### 3. 仕事や生活への悩みや不安

仕事への悩みや不安について、受講前と受講後にそれぞれ尋ねた。全体の順位としては受講前と受講後とで大きな変化はなく、「収入が少ない」「雇用が不安定」「職場の人間関係」などが上位となっている。受講後の変化としては、「収入が少ない」「勤務日数が少ない」「サービス残業がある」などの労働条件面への不安が低下し、「仕事についての知識や経験が不足」が増加している(図2)。



生活への悩みや不安についても、受講前と受講後にそれぞれ尋ねた。顕著な変化がみられたのは、「生活費やローンなどお金のこと」が大幅に低下したことである(図3)。

また、「家族の健康や介護のこと」も低下しており、本講座でお金に関することや介護保険などの公的支援について扱ったことの効果がうかがえる。

今回の講座全体を通して、仕事や生活への不安が解消されたか否かをたずねたところ、仕事への不安については46.6%、生活への不安については53.3%が「不安が解消された」と回答しており、約半数が本講座が不安や悩みの解消につながったととらえている(図4、図5)。



図3 生活への悩みや不安（受講前・受講後）

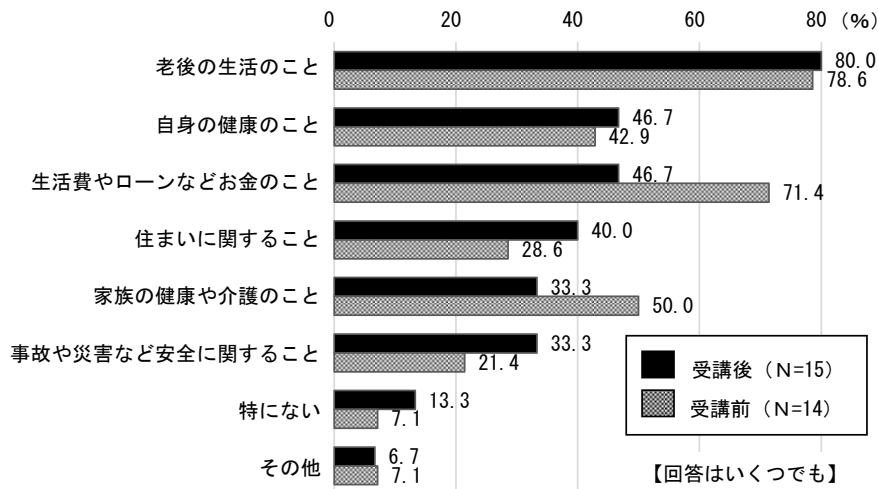


図4 仕事への不安が解消されたか

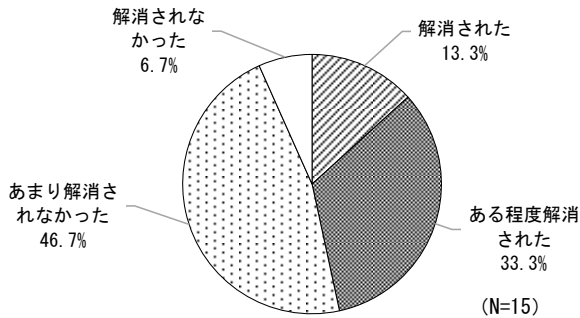
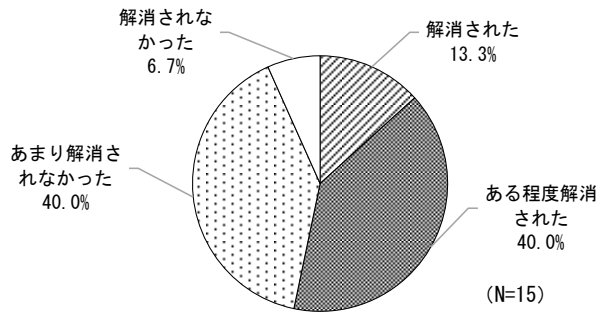


図5 生活への不安が解消されたか

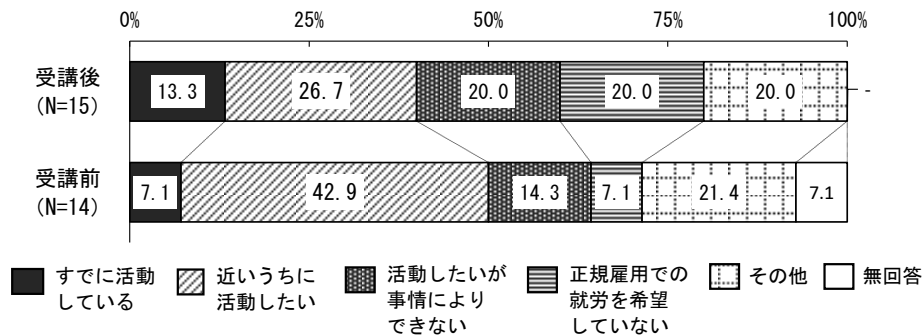


不安が解消された理由としては、「学んだことを実生活に活かしたい」「不安を払拭するための考え方や方向性を探す事で、前向きな術を考えようと思えた」「知らなかった知識を知ることが出来たのでよかった」、解消されなかった理由としては、「不安が解消されるのは、お金があり、しっかりと安定した仕事について時だと思うため」「不安が明確化してないため変化がなかった」などの意見がみられた。

#### 4. 正規雇用での就労について

今後の正規雇用での就労意向とそれに向けた活動については、「すでに活動している」「活動したいが事情によりできない」「正規雇用での就労を希望していない」が増加し、「近いうちに活動したい」が減少した(図6)。数値だけみると、本講座の受講前後で正規での就労意向が高まったようにはみえないが、「その他」として「現在正規雇用だが転職も考える」「派遣から正規雇用になった」「職業訓練講座を受講したい」などの回答があり、すでに正規雇用で働いている受講者がみられた。また、自由記述などから、「これからの生き方を希望をもって考えることができた」「自身を振り返り、わかっていたつもりでいたことやぼんやりと捉えていたことを明確化する発端になりそう」「自分を見直すよい機会になった」など、就労にとどまらず生き方や自分自身を振り返ったり、将来について前向きに考えることができたとの感想が多くみられた。

図6 正規雇用での就労に向けた活動について



### Ⅲ. 考察

以上の結果から、本講座の成果と課題について考察する。

本講座は、非正規で働く女性の不安を軽減するとともに、正規雇用への転換や仕事に対する意欲の向上を促すことを目的として実施した。不安の軽減については、受講後アンケートに回答した15名の受講者の半数程度が不安が低減したと受け止めており、ある程度の効果はあったと思われる。特に生活に関して「生活費やローンなどお金のこと」「家族の介護や健康のこと」などへの不安が低下していた。お金に関する制度や公的な支援制度について、詳しく紹介する講座を設けたことの効果であると考えられる。

不安の解消についての自由記述では「講師が、一つの業種に留まらず職種を変えてきたのを拝見し、私もそうなってきてしまっていたが、それでいいんだと確信を持てた」「自分らしい生き方の見直しになった」「資格を取ってもう少し進んだ事もできるようになりたい」「自分に合うファイナンシャルプランナーを探してお金の生涯設計を立ててもらった」など、自身の振り返りを行ったり、将来のビジョンについて考えたりしたとの回答が多くみられた。本講座は「わたしの未来を考える 未来カフェ」と題して、長期的な視点から仕事や生活について考える講座となるよう内容を設定しており、そのねらいは一定程度達成されたと思われる。

一方で、「つねに経済的不安と背中合わせ」「不安解消には個別の面談が必要」などの回答にみられるように、現在直面している不安、特に経済的不安を講座のみで解消することは難しく、フォローアップや個別の支援等の必要性が示唆された。本講座では講座後に交流会の時間を設けていたが、第3回以降がオンラインでの開催となり、受講者と講師、受講者同士の交流が難しく、ピアサポート的な効果が得られにくかったことも影響したと思われる。今後も新型コロナウイルスの影響が継続すると予測される中、オンライン開催でも受講者の積極的な参加や交流を促す手法について検討する必要がある。

本講座が正規雇用への転換を直接的に促す効果があったか否かは不明だが、資格取得等に前向きな意見がみられたほか、本講座および交流会が受講者の不安を軽減させ、将来を見据えた活動の一助になったと考えられる。

# 非正規雇用女性たちの声をすくう、 福岡県の新たな取り組み

アドバイザー 村山 由香里

## 非正規シングル女性に光をあてる

「派遣は正社員より給料よかったし、仕事も責任ないしラクだなあと考えていたんだけど、こんなに長く派遣で勤めると思わなかった。ちゃんと将来を考えればよかった」  
これ、30年くらい前の友人の言葉です。女性の現状、今も昔も変わっていませんね。

昨年、こんな書き出しで福岡のWEBメディアに福岡県の非正規雇用シングル女性対象の講座「未来カフェ」について記事を書いた。

行政の女性支援といえば、以前は「主婦」対象で「働く女性」にほとんど目が向いていると思えなかった。女性活躍推進法(2015年)が成立する2年前、突然「働く女性」へ目を向けられ、「子育てしやすい環境」「女性リーダー登用」が政府の主導で進められるようになった。日本がいかに男女格差の大きい国なのかが白日の下にさらされ、男性も含めて議論されるようになってきたのは大きな変化だった。しかし、そこでも抜け落ちているのは、「非正規シングル女性」。

その「非正規シングル女性」に光をあてる画期的な取り組みが福岡県で始まり、女性の仕事と暮らしの応援講座「未来カフェ」が行われた。

今回、私はアドバイザーとして広報にも関わった。チラシ作成のディスカッションでは、講座タイトルを大きく出すのではなく、対象者に届く言葉をキャッチコピーとして大きく出したほうがいいのではないかと提案し、「わたし、このままでいいのかな?」に決定した。当事者の女性の気持ちをヒアリングする中で生まれた言葉で、チラシ、WEBのランディングページにこのキャッチコピーと女性のイラストを採用し、訴求力を高めることができた(図1)。

図1 募集チラシ

女性の仕事と暮らしの応援講座

2020年度 わたしの未来を考える 未来カフェ

わたし、このままでいいのかな?

将来のお金が心配・・・

キャリアのこと考えたい・・・

仕事のことでモヤモヤ・・・

【対象者】原則として非正規で働くシングル女性(お金額20%)

参加費無料	感染症対策あり	手紙講座あり	
第1回	第2回	第3回	第4回
福岡市 11.14 Sat	12.12 Sat	1.16 Sat	2.13 Sat
久留米市 11.29 Sun	12.13 Sun	1.17 Sun	2.7 Sun

会場

福岡 リファレンス駅東ビル5階V-4  
久留米 久留米シティプラザ4階小会議室

所在地:福岡県博多区博多駅前1丁目14-14  
行先:博多駅前ビルより徒歩4分  
開催日:全4回(全日程)

お問い合わせ

主催:福岡県

## 社会の変化に翻弄される女性たち

働く女性の56%が非正規雇用、非正規雇用の68%が女性<sup>1</sup>。正規雇用と非正規雇用の賃金格差は100:64.9。男女の賃金格差は100:74.3<sup>2</sup>(図2)。経済分野での男女格差は諸外国に比べ圧倒的に大きく、世界の男女格差順位を押し下げる大きな要因のひとつになっている(世界経済フォーラムが2019年に発表したジェンダーギャップ指数は、153カ国中121位)。

日本では、フルタイムで働く夫の家計補助として、夫の扶養の範囲内で働くパートアルバイトを選ぶ既婚女性が多く、シングル女性の非正規雇用問題が見過ごされてきた。シングル女性は、「仕事をバリバリする女性が、自ら選んで結婚していない」と誤解されがちだ。しかし、「結婚したい、子どもも欲しい」と思っていたが、気がついたら30代後半、40代、50代になっていた、という人は多い。冒頭の30年前の女性のように、シングルで長く非正規雇用で働く女性も多くいる。また、離婚したシングル女性は、

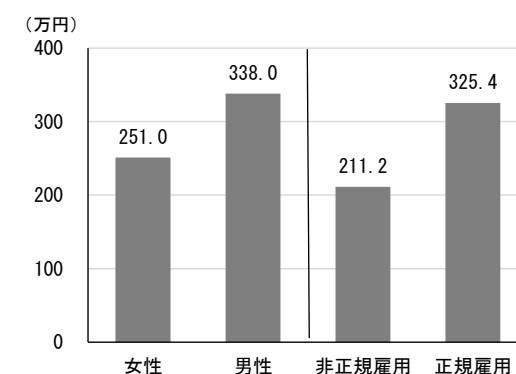
結婚・出産のため一度仕事を離れている場合も多く、経済的な困難を極める。就業しているシングルマザーの平均年間就労収入は214万円。非正規の場合は133万円と低く<sup>3</sup>、相対的貧困率は50%だ。

「自己責任」という言葉でいなされがちだが、実はシングル女性たちの困難は社会が作り出したものだ。

1985年、男女雇用機会均等法と時を同じくして、労働者派遣事業法が成立する。当時は、「とらば一ゆ」という言葉が流行り、転職や派遣で自由な働き方をすることは、新しいカッコいい働き方だと女性たちも思っていたフシがある。一方、アルバイトでも結構稼げることから、定職を持たず夢を追いかけながら「フリーター」になる新卒男性も出現していた。

その後、バブルが崩壊し日本経済の低迷は続き、企業は若者や女性を非正規雇用で採用することが長く続く(図3)。2008年12月、年越し派遣村に並ぶ若い男性たちの映像が流れ、非正規雇用が社会問題になる。「こんなに派遣や契約で働く若い男性が多いのか」と世間は驚いたのだが、それまでどんなに女性の非正規が増えても問題にならなかった。非正規雇用女性は見えないことになっていたと言えるのではないだろうか。

図2 性別・雇用形態別賃金



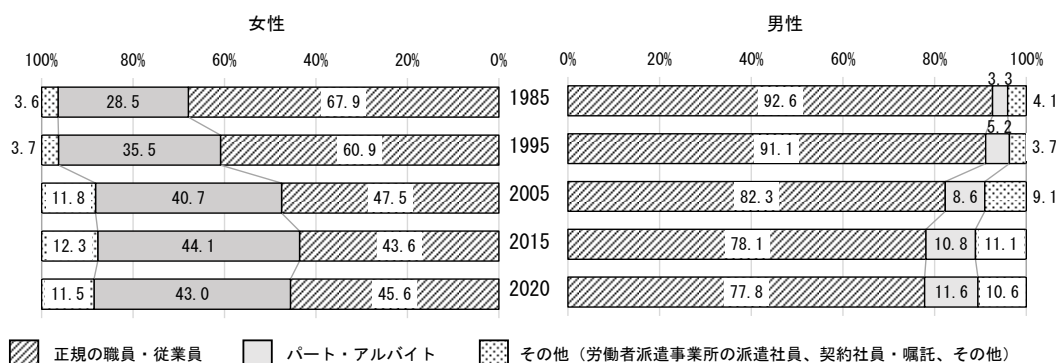
(備考) 厚生労働省「令和元年賃金構造基本統計調査の概況」より作成

注1 総務省「労働力調査2019年平均」

注2 厚生労働省「令和元年賃金構造基本統計調査の概況」

注3 厚生労働省「平成28年度全国ひとり親世帯等調査結果」

図3 雇用者の雇用形態別構成割合の推移



(備考) 総務省「労働力調査長期時系列データ(詳細集計)」より作成

### コロナの時代の非正規女性たち

さて、2020年は、新型コロナウイルス感染症により社会が一変した年だった。

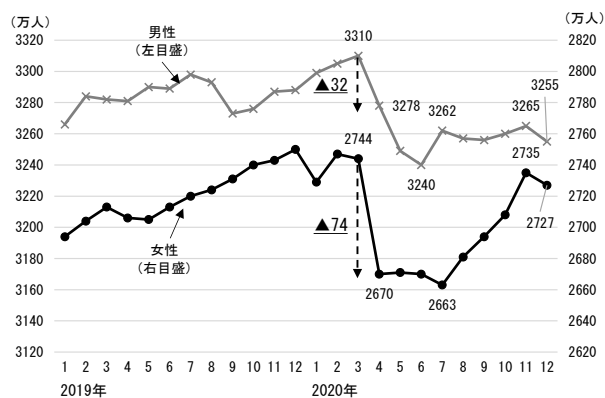
感染拡大防止のため、文化事業やイベントはなくなり、会食の人数は規制され、緊急事態宣言下では飲食店は早い時間での店じまいを余儀なくされた。在宅勤務が急速に増え、リモートでの会議や打ち合わせが一般化した。経済は停滞し、事業経営者が窮地に立たされ、そこで働く人も打撃を受けた。

1回目の緊急事態宣言が発令されたのは、2020年4月7日。3月から4月にかけて、雇用者数はガクンと落ちた。男性32万人減、女性74万人減(図4)。2020年におけるコロナ禍の失業者のうち女性は7割近くを占める。経済危機の際、非正規雇用は、雇用の調整弁として使われることが多い。コロナ禍は女性を直撃していた。

その上、女性の自殺者が増えている。アジア通貨危機、リーマンショックなど、今まで経済危機で自殺者が増えるのは、働き盛りの男性だった。ところが、2020年の自殺者数は、男性は前年比135人減、女性は885人増(図5)。

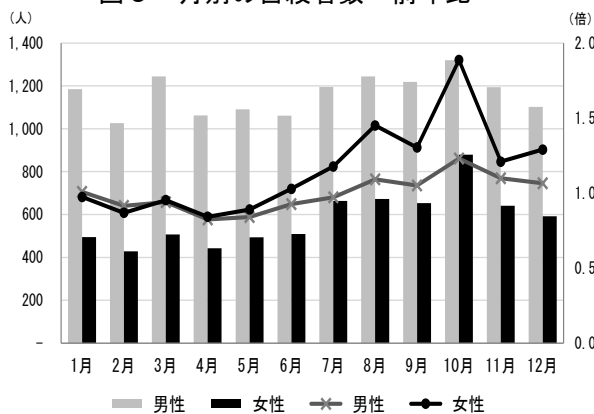
親が失業し、家にいる時間が増える子どもへの影響も大きいし、夫が家にいる時間が増え、もともと家事をしない夫だと妻の負担が増えるばかりだ。DV

図4 雇用者数の推移



(備考) 内閣府「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」第8回資料より作成

図5 月別の自殺者数・前年比



(備考) 警察庁「自殺統計」より作成

相談件数も増えている。ステイホームが夫の家事のスキルをあげるきっかけになればいいのだが。

### 本講座の成果と今後の方向性

本講座は、福岡市と久留米市の2カ所でそれぞれ4回講座として行われた。キャリア、お金、支援制度、資格とそれぞれの専門家の話を聴き、参加者の交流をするカフェのような時間を持った。毎回「わたしの未来を考える 未来カフェNEWS」というかわら版を作り、受講者に配布したのは前講座を振り返るきっかけになりよかったと思う。

「働くことは会社に利用されているんじゃないかと思っていたが、『企業で働くことで社会の変化を見つけることができる』という講師の言葉を聞いて、はっとさせられた」「こうあるべきだ、どうせだめという考え方に縛られていた。ものの見方ひとつで違うことを気づかされた」「人からかけられる言葉に左右されず、思い込みを脱ぎ捨てようと思った」「社会も変わってきていることを知って、未来が明るいことを感じられた」「講師の話聞いて勇気持てた」「これからお金がどれくらい必要なだろうと不安だったが、いろんなことを学べたので、少しずつやっていきたい」講座に伴走して、私自身、受講者からたくさん言葉を直接聞くことができた。

本講座の成果としては、

1. 講師の言葉に刺激を受け、新しい発見があり、未来を明るく感じる事ができた。
2. キャリアやお金、制度や資格など、具体的で実践的な内容で受講者の不安を打ち破り、自分の人生を振り返るきっかけになった。
3. 同じような立場で働く受講者同士、本音で語りあい、共感でき、新しいつながりが持てた。

正社員なら社員研修がある。お金の余裕があるなら自分のお金で興味のある講座を受講することもできる。しかし、非正規シングル女性を対象にして、人生を考え、勇気を与え、前向きに生きる力を喚起するこのような講座は珍しい。講座の存在は、「非正規シングル女性に福岡県は目を向けていますよ」というメッセージでもある。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3回目、4回目は、Zoomを使ってのリモート受講となった。コロナ後もパソコンやタブレット、スマホを使ってリモートで仕事をすることは残っていくと思われ、受講者の経験につながるよい機会だったと思われる。今後の手法として、コロナに関わらず1回くらいはリモートを取り入れることもいいかもしれない。

最後に、受講者のみなさんが、本講座を通して自分を振り返り、未来を信じて、一步前に踏み出す勇気を感じてくれたのならうれしい。

「女性の仕事と暮らしの応援講座」PR 動画





令和2年度  
女性の仕事と暮らしの応援講座  
“未来カフェ” 報告書

令和3年3月

福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課  
〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号  
Tel: 092-643-3391 Fax: 092-643-3392  
メールアドレス: danjo@pref.fukuoka.lg.jp

福岡県行政資料

分類記号 JD	所属コード 5200408
登録年度 02	登録番号 0002